

千里山会第9回総会の概況

(会誌前号8号の第7回は8回の誤り 目次の8回が正当です)

二〇〇五年十一月二六日(土) 朝から快晴、引き締まるような心地よい冷気の中を、聖橋を渡って会場へ向かう千里山会員の姿が見られました。

今回は総会に先立って二〇〇〇年の追悼式から五年の間に他界された会員の追悼が行われました。

追悼式

司式 十四回生 柿崎眞吾

演壇には物故者の数と同じ十四本の白菊が正面演壇の花瓶に活けられ、静かに二二回生尾川原奈美江氏の奏でるピアノから、グノーのアベ・マリアが会場に流れ、全員が起立黙祷する中を、司式者から物故順に回生と氏名が読み上げられました。

11 藤井正俊様・6 井上敬三様・17 鈴木(小田)千代子様・10 民野幹男様・14 松井良太郎様・18 沖(宇都宮)信子様・9 福井喜三郎様・9 藤田田様・18 白鳥撰子様・1 小川(木下)澄子様・17 田中専一様・21 秋葉二郎

様・21 堀田謹吾様・17 藤原昭二様。

故人を偲びつつ、曲の終わりをもって追悼式はしめやかに終了いたしました。

総会

司会 二七回生 萩原直大

開会

挨拶 世話人代表 大森 信

経過報告 事務局長 奥田陽一

特別講演 ホット・スクランブル 三〇回生 阪東政詮

閉会

挨拶要旨 世話人代表は、前日インドネシア・バリ

島方面の地球環境会議から帰国して、地球温暖化による海面上昇を実感してきたばかり、20〜30年後、あるいは40〜50年後、小さな島が水没の危険すらある話を披瀝されました(大森氏は沖ノ鳥島の珊瑚礁を増殖させるための技術検討会の座長を務めており、親珊瑚を採取して沖縄で稚珊瑚を育て沖ノ鳥島へ戻す研究者・技術者として、日本最南端の排他的経済水域縮小防止に体を張って努力されています)。

先日千里山に帰った時、駅から噴水の間にベンチができて老人方が座っておられ、昔の千里山が平均年齢の上昇で陸の孤島のような感じがしたそうで、会場に驚きと和やかな笑いが起こりました。

一年ぶりに元氣な顔が揃い、懐かしい思い出やお互いの近況を話し合える総会がやってきたことの喜び、会員の方々の繋がりをいつまでも大切にしていきたい、一年に一度の秋の午後を心ゆくまで和やかに楽しく過ごしましょうとの呼び掛けがありました。

元世話人代表飯島泰蔵氏が今春瑞宝中綬章を受けられたことへの祝辞、このあとの特別講演をお願いする三〇回生阪東政詮氏への謝意があり、会員の千里山会運営に対する協力への御礼と末永い発展を願って挨拶が終わりました。

奥田事務局長からの経過報告、会計報告（共に別紙参照）、三分一監事の承認報告、つづいて〇六年三月末で任期満了になる学年幹事・副幹事にはこれからも大いにやる気のある方をお願いしたい、世話人（世話人会・会誌編集部・専門部・事務局）と監事も同様任期満了となるので、〇六年夏には幹事会を開催したい旨

懇親会

開会	司会	事務局長	奥田陽一
乾杯		九回生	辰巳 昂
遠来者・初参加者紹介		事務局長	千里山会合唱隊
皆で唄おう		二四回生	河井康郎
閉会			

乾杯の挨拶と音頭は九回生の辰巳 昂氏、学生時代から文学青年で、また硬式テニスでは昭和二五年の全日本で、日本男子で唯一デ杯（複）優勝者の早大の宮城淳に苦杯を飲ませた名選手、旧大阪商大卒業後伊藤忠商事に入社、生涯を商社マンとして活躍されたお方です。お人柄が会場に和やかな雰囲気を生み、司会から遠来者と初参加の方々の紹介がありました。

遠来者（所在地なしは吹田市）

阿部弘（14）、山本平八郎（15）、辻明久（17）沼津、山本勝弥（17）、中村（北浦）陽子（17）、吉川宏子（17）、井出藤川（敏）（20）大阪狭山、和田忠博（20）神戸、荻田和雄（21）高槻、口羽勉（21）、松本進至（21）愛知県愛西市、

の事務局長からの発言がありました。

千里山会ホームページ担当の田代為寛氏から現況と活用について報告があり、会誌編集人の柿崎眞吾氏から、八号掲載予定の「千里山幼稚園物語（二）グレース幼稚園に、卒園生の方への協力お願いがありました。特別講演に先立ち、事務局長から講師の紹介が行われました。

阪東政詮氏は千二小、吹田一中、茨木高校、防衛大卒、昭和四六年航空自衛隊任官（三等陸尉・旧少尉）、北海道から九州まで十三箇所での航空部隊勤務。世界最強の制空戦闘機 F 15（マクダネルダグラス製）はじめ数々の機種の戦闘機操縦者として、また運用幕僚として、三五年間の空の勤務を終え、平成十三年退職（一等空佐・旧大佐）。現在三菱鉛筆東京販売株式会社に勤務。

現役時代の、一般人には体験できない三次元空間の世界を語っていただきました。（講演要旨は19頁）講演終了後、同期の女子から花束が贈呈されました。

休憩

金尾（尾崎）景子（23）廣島、加藤孝（24）仙台、松本（野口）藤枝（24）愛知県愛西市、藤川和生（27）、柏倉弘守（30）滋賀草津、増田泰邦（39）宇都宮の紹介がありました。

初参加 には阿部弘（14）、高田亘（21）、松本進至（21）・松本（野口）藤枝夫妻（夫人は千二卒ではありません）が吹田一中当時は千里山在住（会員に推薦）、永井誠（25）、藤川和生（27）（井出敏（20）のご舎弟、杉山（石井）秀子（31）、石井庸三（35）（杉山秀子氏のご舎弟）

遠来者・初参加者には全員から歓迎の拍手あり、両方を代表して阿部弘氏にご挨拶をお願いしました。

同氏は豊中高・京大文学部美術学科卒、正倉院御物研究者として保存課長・事務所長を歴任、会誌8号には「正倉院へのご案内」の特別寄稿をいただきました。現在吹田市主催の文化講座の講師も担当しておられ、千里山の近況を交えての軽妙なご挨拶に、会場は笑いとともにより一気に盛り上がりを見せました。

特別紹介は九回生の土屋（玉置）みよ子氏、九四年の

復活第一回の同窓会以来の久しぶりのご参加で、会誌の題字「千里山」を書いていただいた書の先生。初めてお目にかかった会員も多く、8号に寄せていただいた北村西望の「たゆまざる歩みおそろし蝸牛」の書と

ともに、あらためて土屋先生のご紹介があり、全員からご健康を祝して拍手が送られました。

そのほか、萩原直大氏が尾川原さんにピアノの連弾を申し入れて始まりましたが、初めてのことで聞き耳と注視の中にメイ演奏は終わり、勇気に拍手が鳴りました。

恒例の「みなで唄おう」はリーダーの城戸三千代氏の都合による欠席で、古川道子氏のリードで合唱隊の先導のもと「お猿のかごや」「みかんの花咲く頃」「学生時代」「山小屋の灯」「琵琶湖周航の歌」「青い山脈」「大きな古時計」など、楽しいコーラスが会場に流れました。

中締めは24河井康郎氏から、会員の健康と来年〇六年の十月二十九日（日）の再会を呼びかけて挨拶が終わり、「今日の日はさようなら」につづいて校歌斉唱をもつてお開きとなりました。

今回の運営には、写真撮影を29小田恂司氏に、受付、会計、会場案内等、次の各氏に今回も終始ご協力を賜り、千里山会として心から厚く御礼申しあげます。

26 竹内照代、26 児玉絢子、26 奥田英子、29 芦田英雄の皆様ありがとうございました！

講演要旨

ホット・スクランブル

三〇回生 阪東政詮 まきのり

昨年の千里山会で日本では余り目に触れる事の無い航空自衛隊の空の世界についてお話をさせて頂きました。ご婦人の方が多いようでしたので空を飛ぶ世界から話を起こしたことで返って纏まりの無い内容になってしまい恐縮しております。

戦後60年の時を経て社会もマスコミも日本の防衛問題に正面から向い合う姿勢が伺えるようになっていきます。防衛、軍事と言えれば直ぐ憲法9条、戦争に話が飛ぶ短絡的思考が見られなくなったのはある意味で日本も国際社会の中で健全な状態になって来ているのかなと思っております。

数年前、日本海で海上保安庁の巡視船が北朝鮮の工作船と銃撃戦を繰り広げたのをご記憶のことと思います。海上自衛隊が追跡していた工作船の情報が海上保



安庁に届くのには8時間も掛かり遅れた云々と当時言われましたが、要は軍事力そのものである海上自衛隊をもつて警察行動をするか、それとも海上保安庁をもつて行動するのかの決心時間が8時間だったと言うことでは無かったでしょうか。

皆様ご存知のように「スクランブル」とは「ごちゃまぜにする」と言う意味で戦闘機が緊急発進する際の慌ただしさを良く現している言葉だと、その場を経験した者として、今でも笑いのようなものがこみ上げてきます。実際の識別不明機に対して下令される場合は「ホット・スクランブル」と呼び熱い緊張感の一端も伝わってきます。

航空自衛隊も創設以来50年近く関連する法令、規定等に依らず我国の領空（領土及び領海の上空）に接近する識別不明機に対する警察行動（対領空侵犯措置）を実施しています。

全国を北、中、西、南西の4個セクターに分け、現在、セクター毎に空対空ミサイル2発と機銃を搭載した2機が常時5分待機に就いています。そして、指令は、北は青森県三沢、中は埼玉県入間、西は福岡県春日、南西は沖縄県那覇にあるセンターから出されません。

航空自衛隊の場合、北朝鮮工作船の時のように識別不明機と銃撃戦に及んだ事例はありませんが、沖縄の那覇、嘉手納上空を領空侵犯した旧ソ連の爆撃機型偵察機2機に対してF-4ファントム機により機銃による信号射撃を実施したことがあります。

私も、宮崎県新田原基地に勤務していた昭和59年の秋も深まりを見せた11月のある日、まだ夜も明けやらぬ早朝、自宅待機で惰眠をむさぼっているところを非常呼集で叩き起こされ、飛行隊に着くや飛行服に着替え必要な装具を装着し、準備されている航空機に向かって小走りに走りながら状況について説明を聞き、呼集から30分後には空中の人となっていました。

当時は旧ソ連崩壊前でまだ東西がっぷり四つに組んだ構図の中に置かれ、ソ連がベトナムのカムラン湾に爆撃機を常駐させている状況でした。それは数ヶ月に一度の爆撃機を入替えるため6機の中型爆撃機が大挙して日本海を南下し対馬海峡を通峡して行くことに對するスクランブルでした。

私の離陸する前既に福岡県築城基地からF-4ファントム2個編隊(4機)と新田原基地からF-15イーグル2個編隊(4機)が発進していました。

中型爆撃機は全て同型機(TU-16)で内3機は空

私の勝手な判断かも知れませんが、当時、ソ連の空中給油機のパイロットが国際民間航空条約に示された機体信号等を十分教育されているかどうかと思っていましたら案の定の反応ありません。そこで地上のセンターの許可を得て出来るだけ対象機のコックピットに後上方から接近し、その計器指示が判読出来る位まで近付いて手信号で領空から離れるよう指示しました。

二人のパイロットが右後上方を見上げながら両手を上げて「自分達の飛んでいる位置が判らない。」と言うような素振を見せたのが印象的だった記憶が鮮明に残っています。

暫くしてその航空機はやっと緩やかに左旋回をして針路を変え日本の領空から離れて行きました。

また、別のF-15編隊長の福岡県沖ノ島上空を領空侵犯しているソ連機に沖縄の事例と同じ様に「機銃による信号射撃による警告の許可を願いたい。」と言う旨の緊迫した声が無線を通して入ってきたのもある意味衝撃的だったのも憶えています。

東西冷戦は20世紀後半の過去の出来事です。我が国を取り巻く環境は反ってその難しさを見せ始めています。今もかつての私同様にスクランブルの現場に居る

中給油機に改造したものでした。

爆撃機の航続性能からシベリヤの奥地からベトナムまでの飛行は困難なことから空中給油型機を随伴し対馬海峡通峡後に空中給油してカムラン湾への飛行を企てていました。

私の編隊が日ソ合同の大編隊に空中集合した時には通峡も完了し、彼等が空中給油を実施中でした。

ところが暫くして合計16機の日ソ合同の大編隊は九州南岸に停滞する前線性の雲に突入することになり誰も自分の周りを視認できない状態に陥ることになってしまいました。

彼等は雲中での空中給油を断念しチリジリバラバラになって北に反転して一路沿海州方面に帰り始めました。非常に近い距離を飛んでいた16機の航空機が雲中で空中接触や衝突することも無かったのは不思議？幸運？と言うほかありません。

幸い、九州地方北部は快晴に近い天候でしたので雲の域を脱すれば問題はありませんでした。

地上レーダーによる夫々の航空機の識別も困難になり空地共に蜂の巣を突付いたような状態が生じし、結局私の編隊は長崎県福江島に接近し領空侵犯しそうな1機の空中給油機を追っかけることになりました。

者にとつては国際法規や関連の規則、規定に則って粛々と、淡々と対処するのみですが、バックに其れなりの国民や政治の理解を得られていることが大切だと思っています。

私は昭和46年4月に静岡県静浜基地での操縦訓練開始から平成13年9月に埼玉県入間基地での最終フライトまで30数年間無事に操縦桿を握れると言う幸運に恵まれたことを感謝しております。

しかし、この間私の身近では19名の戦闘機操縦者と2名の救難機操縦者及び3名の救難空中勤務員、計24名の方々をお見送りすることとなりました。

航空事故の原因はそれほど単純ではありませんが、常に人的ミスを含んでいるのも歴然とした事実です。特に、ここに紹介しました世界にはオートパイロットの世界は殆ど存在せず全てマニュアル操縦の世界であることをご理解頂ければ幸いです。

職に殉じられた方々に衷心より哀悼の誠を捧げたいと思います。

取り止めの無いお話をさせていただきましたが最後までお読み頂き感謝申し上げます。

千里山会 2005年総会・懇親会 出席者名簿

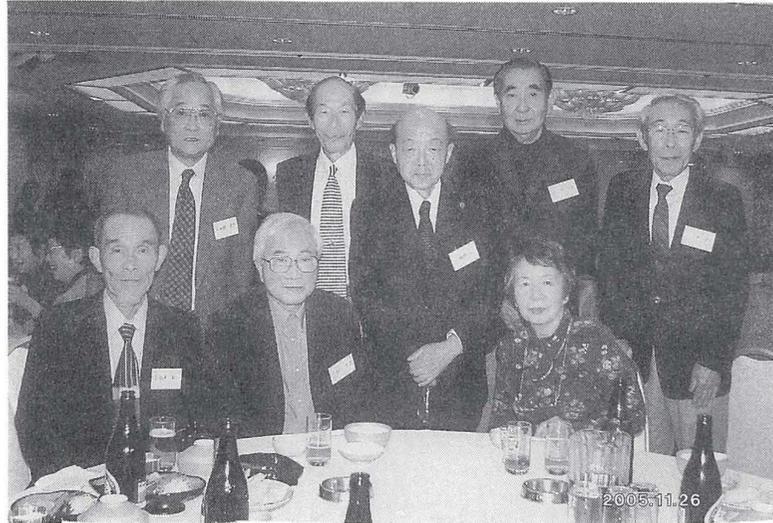
2005.11.26

お茶の水ガーデンパレス 平安の間

(回生別・五十音順・*印初参加)



後列： 9 飯島 10 徳田 9 辰巳
前列： 9 玉置 10 伊達 11 岡村 11 伏見 8 伊藤



後列： 14 柿崎 13 清水 14 阿部 14 三分一 16 清水
前列： 13 弘末 12 石川 14 山崎

- 8回生 宍戸(伊藤)清子
- 9回生 飯島泰蔵、辰巳 昂、土屋(玉置)みよ子
- 10回生 徳田迪夫、五十嵐(伊達)葉子
- 11回生 河合(岡村)貞子、伏見千瑞子
- 12回生 石川忠志
- 13回生 清水達夫、弘末新一
- 14回生 *阿部 弘、柿崎眞吾、三分一克美、岡本(山崎)郁子
- 15回生 赤羽隆夫、高橋景一、山本平八郎、寺井千重子(岡 昭子)、藤井(海原)文
- 16回生 清水健至
- 17回生 高橋一三、友野信善、宮中 博、森 茂、山本勝弥、梅本(渡辺)ひろみ、中川(宮村)恭子、中村(北浦)陽子、山本(吉田)恵子、吉川宏子
- 18回生 片山 章、山崎 不二雄、小木曾(名田)文子、栗木(池田)明子、寺澤(劉)美代子
- 20回生 久保利也、長谷川宏有、和田忠博、井出(藤川) 敏、小山(西岡)妙佳子、中内(柏倉)国子、米崎(三輪)ふゆ子
- 21回生 芦田和雄、大森 信、口羽 勉、*高田 亘、平田 坦、松本進至、大久保千尋
- 22回生 尾川原奈美江、垣見(小林)久子
- 23回生 金尾(尾崎)景子、黒川(大藤)幸子、佐努賀(片山)弘子、牧野(奥山)恵子
- 24回生 市原四郎、奥田陽一、加藤 孝、河井康郎、河合(五十嵐)和子、*松本(野口)藤枝
- 25回生 *永井 誠、牧村(山崎)佳那子、吉田(牧野)麻子
- 26回生 細見 彰、大貫(石原)康子、奥田(渡部)英子、川原(河井)一恵、児玉(服部)絢子、下野(中瀬)龍子、関(村岡)貴美子、竹内(渡辺)照代
- 27回生 五十嵐孝夫、熊谷克彦、高見信雄、萩原直大、*藤川和生、戸島(大石)松子、本川(松川)淑子、宮林(村田)芳子
- 29回生 芦田英雄、小田恂司
- 30回生 柏倉宏守、阪東政詮、池田(桐山)恭子、森島(服部)美紗子、保田(池原)洋美
- 31回生 後藤健次郎、*杉山(石井)秀子、高松(五十嵐)知子、三木(三浦)愛子
- 32回生 一井邦敏、田代為寛、深川秀之、清水(坂田)まや子、古川(藤本)道子
- 33回生 古村(松川)陽子
- 35回生 *石井庸三
- 39回生 増田泰邦

以上100名



後列： 20 久保 20 和田 20 長谷川
 前列： 20 藤川 20 三輪 20 西岡 20 柏倉



後列： 15 赤羽 15 山本 16 片山 18 山崎 15 高橋
 前列： 18 名田 18 劉 18 池田 15 岡 15 海原



後列： 21 芦田 21 平田 21 松本 21 大森 21 口羽 21 高田
 前列： 21 大久保 22 尾川原 22 小林



後列： 17 高橋 17 友野 17 山本 17 森 17 宮中
 前列： 17 宮村 17 吉田 17 渡辺 17 吉川 17 北浦



後列： 26 渡辺 26 服部 26 村岡 26 細見 29 芦田 29 小田
 前列： 26 中瀬 26 渡部 26 石原 26 河井



後列： 24 野口 24 加藤 24 河井 24 市原 24 奥田
 前列： 23 尾崎 23 片山 23 奥山 23 大藤 24 五十嵐



後列： 30 柏倉 30 阪東 31 後藤 31 石井
 前列： 30 桐山 30 池原 30 服部 31 三浦 31 五十嵐



後列： 25 永井 27 萩原 27 高見 27 熊谷 27 藤川 27 五十嵐
 前列： 25 牧野 27 松川 25 山崎 27 大石 27 村田

2005・2006年度主な経過報告

- 05.07.06 04年度会計監査 場所：学士会館
14柿崎眞吾 14三分一克美 26竹内照代 24奥田陽一
- 05.07.25 会誌8号発送
14柿崎眞吾 14三分一克美 17高橋一三
- 05.08.27 「千里山会HP」更新
- 05.09.03 会誌8号を「千里山会HP」で公開
- 05.10.17 総会・懇親会案内状発送
- 05.10.20 合唱隊練習 場所：国際ユースホテル
- 05.10.31 合唱隊用歌集印刷・発送
- 05.11.10 合唱隊練習 場所：国際ユースホテル
- 05.11.16 グレース幼稚園特集準備打合せ 場所：学士会館 二色
14 柿崎眞吾 16 平井満夫 小澤静子 17 友野信善
17 山本恵子 24 奥田陽一
- 05.11.16 総会準備 ホテルと打合せ 24奥田陽一
- 05.11.26 2005年度 総会・懇親会 (詳細 会誌9号)
- 06.02.18 グレース幼稚園卒園生の集い
場所：新橋アルテリーベ 参加者：保良園長以下21名
- 06.02.24 会誌9号掲載座談会 場所：学士会館 二色
12石川忠志 15赤羽隆夫 15高橋景一 司会：14柿崎眞吾



後列：39 増田 32 深川 32 田代 32 一井 35 石井
前列：33 松川 32 坂田 32 藤本

2006年度総会・懇親会予告

昨年と同じ東京ガーデンパレスで開催いたします。
会員の皆様にはお誘い合せのうえ、奮ってご出席下さい。

日時：2006年10月29日(日)

12時開会予定

会場：東京ガーデンパレス

JRお茶ノ水、地下鉄千代田線・新御茶ノ水、丸の内線・お茶ノ水駅下車、
聖橋方面より徒歩5分

ホテルに宿泊を希望される方は早めにお申し出くだ
さい。満室でご希望に副えない場合はご容赦願います。

【2005年度 千里山会収支表(仮)】

05年4月1日～06年3月31日

2006年3月31日

収入	金額	支出	金額
前年度繰越	1,112,992		
年会費 264名	528,000	通信費	185,480
		振込手数料	630
内訳 04年 12名	24,000	文具・コピー費	26,832
05年 251名	502,000	打合経費	52,528
06年以降 1名	2,000	慶弔費	
振込手数料(会費振込分)	-15,740	会誌8号作成費	286,733
その他	559	会員名簿作成費	
利息	10		
小計	512,829	小計	552,203
懇親会費 101名	808,000	会食費	864,317
@8,000		写真費	
		合唱隊諸経費	23,700
		記念品費	
		小計	888,017
寄付金 8名	55,880	繰越	1,049,481
合計	2,489,701	合計	2,489,701

参考 基金総額：617,000円(1996年募集)
寄付累計：633,812円(1996/4～2006/3 延89名、含切手寄付)

【2004年度 千里山会収支表】

04年4月1日～05年3月31日

2005年3月31日

収入	金額	支出	金額
前年度繰越	707,381		
年会費 303名	606,000	通信費	60,252
		振込手数料	
内訳 03年 9名	18,000	文具・コピー費	41,830
04年 285名	570,000	打合経費	25,230
05年以降 9名	18,000	慶弔費	10,000
振込手数料(会費振込分)	-18,370	会誌7号作成費	8,610
その他	450	会誌8号作成費	
利息	10	会員名簿作成費	64,564
小計	588,090	小計	210,486
懇親会費 108名	864,000	会食費	922,655
@8,000		写真費	
		合唱隊諸経費	16,860
		記念品費	
		小計	939,515
寄付金 15名	103,522	繰越	1,112,992
合計	2,262,993	合計	2,262,993

本日、千里山会の会計監査をした結果、処理は適正且つ正確であるものと認めます。

2005年 7月 6日 監事 三分一 克美

参考 基金総額：617,000円(1996年募集)
寄付累計：577,932円(1996/4～2005/3 延81名、含切手寄付)

事務局注記：
本来04年度に計上すべき会誌8号作成費283,993円、同発送費110,180円計394,173円は05年度に計上しました。従いこれを04年度に計上した場合の繰越額は718,819円となります。